

かみさまありがとう

<今月の聖句>「いかに楽しいことでしょうか、主に感謝をささげることは。」(詩編92:2)

まだ緊急事態宣言下でのことだった。
つくし保育園の子どもに偶然園外で出会う機会があった。
私の顔を見るなり、突進してきて
両ひざに足をかけるようにして巨体をよじのぼり
同じ目線になったかと思うと、ばさっ！
小さい両腕でしっかりと抱きしめてくれた。
顔をうすくめながら、「保育園に行きたいよ」と涙声に。
「大丈夫、もうすぐみんなに会えるよ」といって
背中をさすってあげることはできなかった。

ずっとおうちで兄弟やお母さんといっしょ
これもまたとない貴重な時間だったと思う。
でも、季節とともに移り変わる風のおいを感じながら
広い園庭を花や虫や果物を探しながら自由に駆け巡り
友だちと相談しながら積み木を一つ一つ重ねおき
いろいろな色をつかって今の自分の心をうつし描き
旬の食材が彩る安全でおいしいご飯を口いっぱいほおぼる
つくし保育園の、そんなあたりまえの日常がどれほど
子どもたちの心のよりどころであったか
期せずしてコロナがわたしたちに教えてくれた。

ここにみんなといられるだけで、こんなうれしい
宣言があけて間もない頃
一人ひとりの笑顔がそう叫んでいるようだった。
「いかに楽しいことでしょうか」
「楽しい」とは、何か特別な目新しい行事をすることだけでなく
あたりまえの日常の中に隠れている「感謝」のこともかもしれません。
(つくし保育園園長 つだかずお)

<少しずつ秋色にかわっていくお庭のチャペルで礼拝しよう>
毎週日曜日午前10時30分 だいが教会